

abortive SIDS における胃食道逆流現象(GER)の関与

— 1. GER の検索、評価法 —

神奈川県立こども医療センター

角田 昭夫、大浜 用克

SIDS における胃食道逆流現象（以下 GER と略す）の関与について研究して行く予定ですが、今回は GER の検索、評価法として長年われわれが研究して来た24時間食道 pH モニタリング法を紹介し、今後の研究計画について述べさせていただきます。

胃液が酸性である限り胃内容の食道への逆流は、下部食道で pH を連続測定することで全てを把握でき、24時間のモニタリングは日内変動をも含めた GER の全容をとらえると言う意味で価値があり、現在もっとも秀れた検査法と言えます。同法はすでに 160 回の施行経験から、新生児をも含めた児への安全性はもとより、その有用性を検討してあります。われわれは24時間の記録から、独自の評価法として逆流時間率(pH 4 以下の時間率)、5分以上の逆流数から pH score を作り、GER の診断、GER の手間適応の決定に役立てています。

また pH モニタリングの登場は、いわゆる正常児でも24時間記録すると、数は少ないが逆流現象（生理的逆流現象）が認められ(図1)、その日内の逆流様式として、逆流は日中に多く、睡眠時は極めて少ないことや(図2)、臥位時の逆流よりか坐位時の逆流が多い傾向にあることや、哺乳と逆流の発生とは関係が薄い等、種々の研究結果が判明している。

われわれの今後の研究計画は、前述した如く、GER の検査としてすでに確立し得た pH モニタリング法を用い、①abortive SIDS 児で GER を合併する児の診断、②その逆流様式が、いわゆる消化器症状を主体とする GER 児と差があるかの検討、③心拍、呼吸、pH モニタリングの同時記録を行い、逆流と spell の直接因果関係を証明して行く、④GER と診断された児については、酸逆流テストの応用で逆流誘発による発作誘発が可能か等について検討して行く予定である。

CONTROL 6m

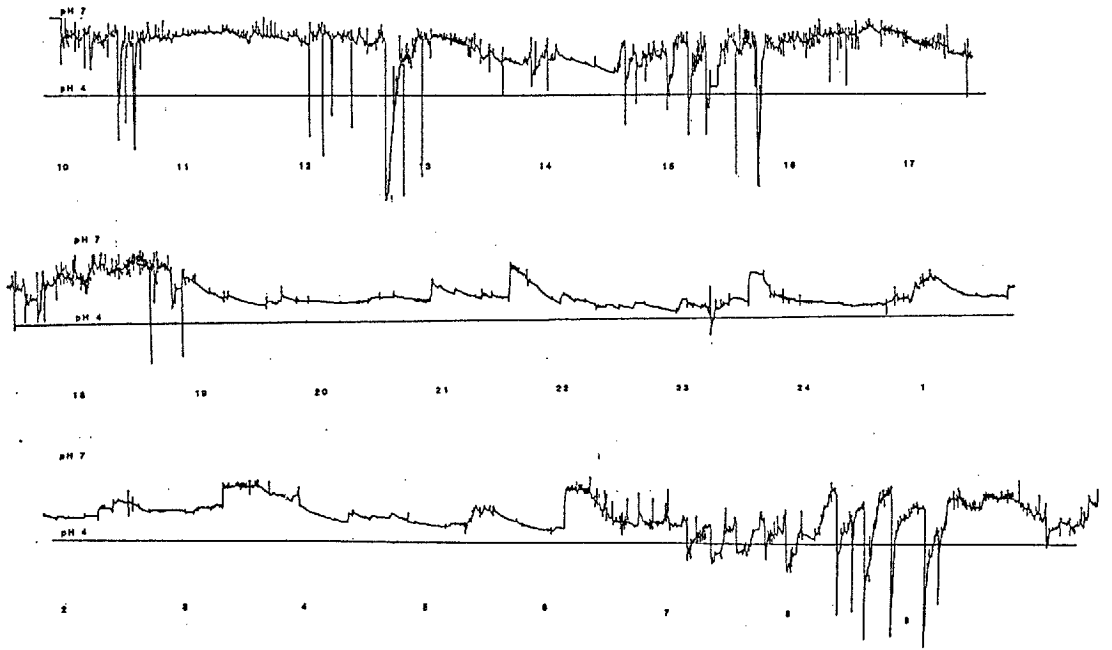


図1 6ヶ月児(対象)の24時間食道pHモニタリング

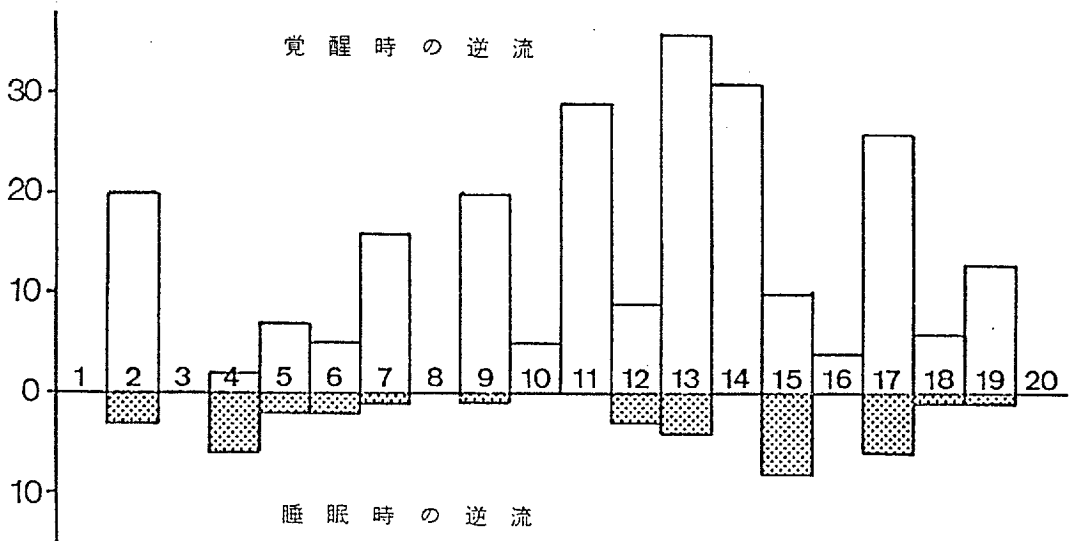


図2 20例のcontrol study、(縦軸は逆流数、横軸はcontrol No.を示す)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



SIDSにおける胃食道逆流現象(以下GERと略す)の関与について研究して行く予定であります。今回はGERの検索、評価法として長年われわれが研究して来た24時間食道pHモニタリング法を紹介し、今後の研究計画について述べさせていただきます。

胃液が酸性である限り胃内容の食道への逆流は、下部食道でpHを連続測定することで全てを把握でき、24時間のモニタリングは日内変動をも含めたGERの全容をとらえると言う意味で価値があり、現在もっとも秀れた検査法と言えます。同法はすでに160回の施行経験から、新生児をも含めた児への安全性はもとより、その有用性を検討してあります。われわれは24時間の記録から、独自の評価法として逆流時間率(pH4以下の時間率)、5分以上の逆流数からpH scoreを作り、GERの診断、GERの手間適応の決定に役立っています。